



知床科学委員会 しんぶん

知床世界自然遺産地域 科学委員会

NO. 19



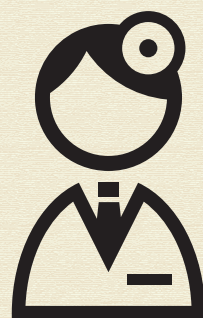
世界自然遺産地域である知床の自然環境について、海域と陸域の統合的な管理を行うため、有識者に科学的な助言を求める、「知床世界自然遺産地域科学委員会」が札幌市で開催されました(2020年度第2回目:2021年3月8日)。今回の議題の中心は、長期モニタリング計画のこれまでの10年をどう総括するのか?でした。

必見! TOPIC

知床世界自然遺産を 「健康診断」するための仕組みづくり

長期モニタリングは、「知床世界自然遺産は今こういう状態です」、だから「このように管理していきましょう」という指針を考えるための、いわば「健康診断」に相当します。健康診断ですから、悪い症状(=モニタリングで低評価)が見つければ、それぞれに見合った処方(対策)が必要になります。

「健康診断」は8つの「検査」(評価項目Ⅰ～Ⅷ)から行われます。例えば評価項目Ⅶでは、次の表のように評価されていて、課題について今後の対応策をしっかりと考える必要があります。



評価項目Ⅶ	総評
レクリエーション利用等の 人為的活動と自然環境保全 が両立されていること	適正利用に向けた管理・取組は概ね良好な状態であり、ヒグマ関連以外では利用者等による自然環境への明確な影響は確認されていない。
	ヒグマとの軋轢やヒグマ捕殺数が増大傾向であり、状況改善が必要。
	海鳥の生息数等との両立について、現時点で営巣地や個体への接近をあらわすデータが収集できていないため、検証に向けて改善が必要。

今後、各項目の評価を基に、知床世界自然遺産地域の健康診断(総括)の結果を「総合評価」としてとりまとめ、公表する予定です。



原因は?

環境(気候)の変化?
人間の過剰な利用?
全く別の理由?



情報を集めよう!!



知床白書について

知床白書とは、知床世界自然遺産地域内の管理に関わる取組（施設整備、実施事業、調査、会議開催、保全管理のための課題対応、観光利用・・・等）の状況を取りまとめた1冊です。科学委員会からの承認をうけて、今後の管理に活かすことを目的に毎年作られています。

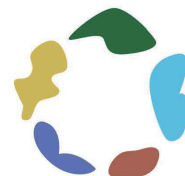
※正式名称は「知床世界自然遺産地域年次報告書」

平成21年度から発行され、今回で11冊目となります。全て「知床データセンター」のHPから読むことができます。

http://shiretoko-whc.com/A_report.html



知 床 白 書



令和元(2019)年度 知床世界自然遺産地域年次報告書

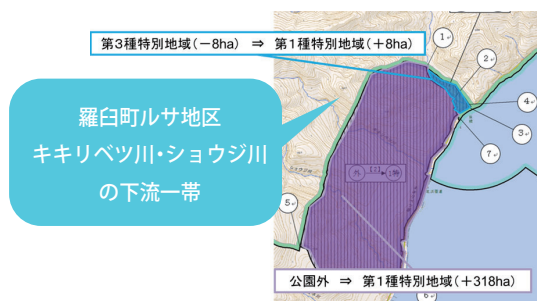
環境省釧路自然環境事務所
林野庁北海道森林管理局
北 海 道

内容をちょっとだけ紹介！

【トピック】

令和元年度版では次の二つがとりあげられました。

- ① ルシャ川治山ダムを改良(自然な状態へ回復)する助言を得るため、IUCN(国際自然保護連盟)の専門家^{しょうへい}を招聘
- ② 知床国立公園の公園区域及び公園計画の変更



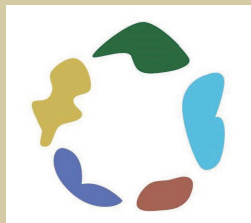
【森林再生事業・生物相の復元】

かつて乱開発の危機にあった斜里町幌別・岩尾別地区では、開拓跡地を保全し、原生の森を復元する取り組みを行っています(しれとこ100平方メートル運動の森・トラスト)。令和元年度は、多様な樹種が生育できる環境を創出するため、過密だったアカエゾマツ造林地の一部で間伐(密度調整)が行われました。



それぞれに「おっ!？」となるような情報が含まれていると思います。是非一度ご覧ください！

知床白書の中央には知床世界自然遺産のシンボルマークが配置されています。5つの環は、知床の生き物のつながり、海と川と森をむすぶ環、更にその環を守るための人々の環を表現しています。



- 新緑：樹木、湖から見た山の風景
- スカイブルー：空、空を舞う鳥の翼
- 褐色：土、森をゆく動物たちの足跡
- 紺青色：海や川、魚たちの尾びれ
- 黄葉^{きはだ}：色づく森、木々や草の葉

● しんぶんのバックナンバー、会議や知床世界自然遺産地域の情報を更に知りたい方は下記HPへ
知床データセンター：<http://dc.shiretoko-whc.com/>

■問合せ先■ 環境省釧路自然環境事務所

〒085-8639 北海道釧路市幸町 10-3 釧路地方合同庁舎 4 階 TEL 0154-32-7500 FAX 0154-32-7575

■発行：環境省 / 制作：公益財団法人 知床財団 / 発行：2021年3月

